

ジャン・ウジェーヌ・オーギュスト・アジェ 《日食》
Jean Eugène Auguste Atget, "Eclipse, 1911"
1911, 17.0×22.3cm, セラチンシルバープリント
街や公園などの風景、商店の店先、
人々の生活観あふれる風俗などを8000枚ともいう
膨大な写真にのこしたアジェは、
「芸術家のための資料」という意識で記録に徹し、
その旺盛な制作により記録魔とも呼ばれた。
その写真にシュルレアリスムの美を見出したマン・レイの
助手だったベレニス・アボットにひきつがれて
原板が保存され、現在まで伝わった。



1999年11月5日(金)～2000年1月23日(日)

[学芸員によるフロアレクチャー] 毎月＝第1、第3金曜日 午後2時～
[主催・会場] 東京都写真美術館 3階常設展示室
[開館時間] 午前10時から午後6時まで(木・金のみ午後8時まで)入館は閉館の30分前まで
[休館日] 毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合はその翌日)
[観覧料] 常設展＝一般500(400)円/小・中・高校生250(200)円
*都内の小・中学生、第2・第4土曜日に観覧する高校生(要証明)は、常設展のみ無料となります。(1)内は20名以上の団体料金です。
*小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその介護の方1名は無料になります。
[交通機関] JR恵比寿駅より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内) お車での来館はご注意ください。
[インターネットアドレス・NTTハローダイヤル] <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp> 03-3272-8600

第4部 アメリカの写真:2000年1月28日(金)～4月6日(木) 開催予定。

編集＝東京都写真美術館 発行＝財団法人 東京都歴史文化財団、東京都写真美術館 ©1999
デザイン＝横島知彦 製作＝株式会社 求龍堂



東京都写真美術館
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0031
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153-0062



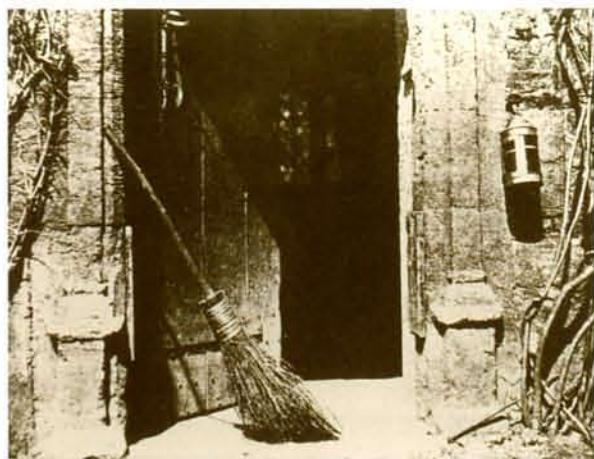
古紙配合率50%再生紙を使用しています

master works, master photographers



写真表現の軌跡

第3部 ヨーロッパの写真——東京都写真美術館コレクション展



- 1 ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット 《開かれた扉》
William Henry Fox Talbot, "The Open Door"
1844-46, 16.0×19.0cm, カロタイプ
1800年に英国の旧家に生まれ、ケンブリッジ大学に
学んだタルボットは、1831年に王立協会会員、
1833年には国会議員に選出されている。
写真術発明の栄誉を分け合っているダゲールの
ダゲレオタイプ(銀板写真)が、撮影した1枚の写真しか
得られないのに対し、タルボットのカロタイプは、ネガから複数の
プリントを作ることができる現在と同様の写真術であった。
1844年から46年にかけて世界最初の写真集
『自然の鉛筆(Pencil of Nature)』を刊行。
自然科学、考古学、言語学など広く業績を残した。
1877年没。

- 2 ジュリア・マーガレット・キャメロン 《マーガレット》
Julia Margaret Cameron, "Margaret"
1860-70年代頃、25.1×20.0cm, 絹布紙
1815年インドのカルカッタに生まれ、
1879年セイロン(現スリランカ)のカルタラで没。
1848年に英国へ移住し、
1859年からワイト島に居を構えた。
48歳のとき(1863年)娘から贈られたカメラで
写真を始めたキャメロンは、
1875年にセイロンに戻るまで
ここでスタジオを開き、
テニスなど親交のある有名人や身近な人々を撮って
肖像写真家として高い評価を得ていた。



- 3 ネグレッティとザンブラ(ヘンリー・ネグレッティ、ジョセフ・ザンブラ) 《クリスタル・パレス》
Negretti & Zambra (Henry Negretti, Joseph Zambra), "Crystal Palace"
1851-53, 6.6×5.7cm, ダゲレオタイプ
1850年から共同で写真の出版や光学機器などの製造販売をしていたネグレッティとザンブラは、
1853年には、クリスタル・パレスの公式写真家となり、写真家たちを使い撮影した300を超えるステレオ写真を出版。
また、プリズ撮影による中近景などのステレオ写真は600種類以上であった。
1863年にネグレッティは気球による初めての空撮を試みているが、雨れが原因で失敗している。
ネグレッティは、1879年シデナムで没。ザンブラの消息は不明である。

- 4 ルイ・デュコ＝デュ＝オーロン 《アジャンの風景、木と水の流れ》
Louis Ducos Du Hauron, "Paysage d'Agen, avec arbre et cours d'eau"
1877, 12.7×19.0cm, エリオクロミイ
1837年ランゴンに生まれる。少年期をアジャンで過ごし、
科学と音楽に熱中、作曲とピアノを学んでいる。
1862年、科学アカデミーで研究発表。1863年、写真を学び、翌64年に
クロノフォトグラフィ(物体の動きを映像で記録する装置)の特許取得。
1868年、カラー写真の特許取得。カラー印刷へと研究を進め、
トゥールーズに印刷工場を設立。1920年アジャンに没するまで
色彩写真と印刷の研究に没頭した。



- 5 ジョン・トムソン 《ロンドンの街頭生活》
John Thomson, "The Street Life in London"
1877-78, 11.4×8.6cm, ウッドバリータイプ
1837年エディンバラ生まれ。中国、カンボジア、インドシナなど
極東の各地に滞在し、数多くの撮影を行い、
『中国とその国民の図誌』などで文化人類学的方法を展開した。
ロンドンの貧民街を撮ったこの写真集によってトムソンは、
写真を使った最初期の
社会派ドキュメンタリストとしての評価を確立した。
すぐれた印刷(ウッドバリータイプ)が、
この仕事の価値を高めている。